

「新たな地域コミュニティ組織」づくりに向けて

〈1〉 中山間地域の維持・活性化を図る「仕組みづくり」

■ 「新たな地域コミュニティ組織」を形成し、効率的に運営していくためには、まず、地域集落が抱える諸課題を解決するために、地域ぐるみの「新たな仕組み」を創っていくことが重要です。

■ 具体的には次のような課題に対応するため、それぞれの地域の実情に応じた「4つの仕組み」が必要です。

①集落の減少・機能低下

②集落活動の停滞・地域の「誇り」空洞化

③行政主導型の地域づくり

④市町村合併に伴う周辺対策

これからの課題に対応するためには「4つの仕組み」が必要です

①
集落の機能低下を広域で支え合う仕組みづくり

②
多くの住民の声と知恵を生かし、地域のやる気を引き出す仕組みづくり

③
住民自身が主体的に地域を良くする仕組みづくり

④
住民の声を聞き、効率の良い支援を行うための仕組みづくり

4つの仕組みを実現するために

複数の集落が支え合う「新たな地域コミュニティ組織」を形成

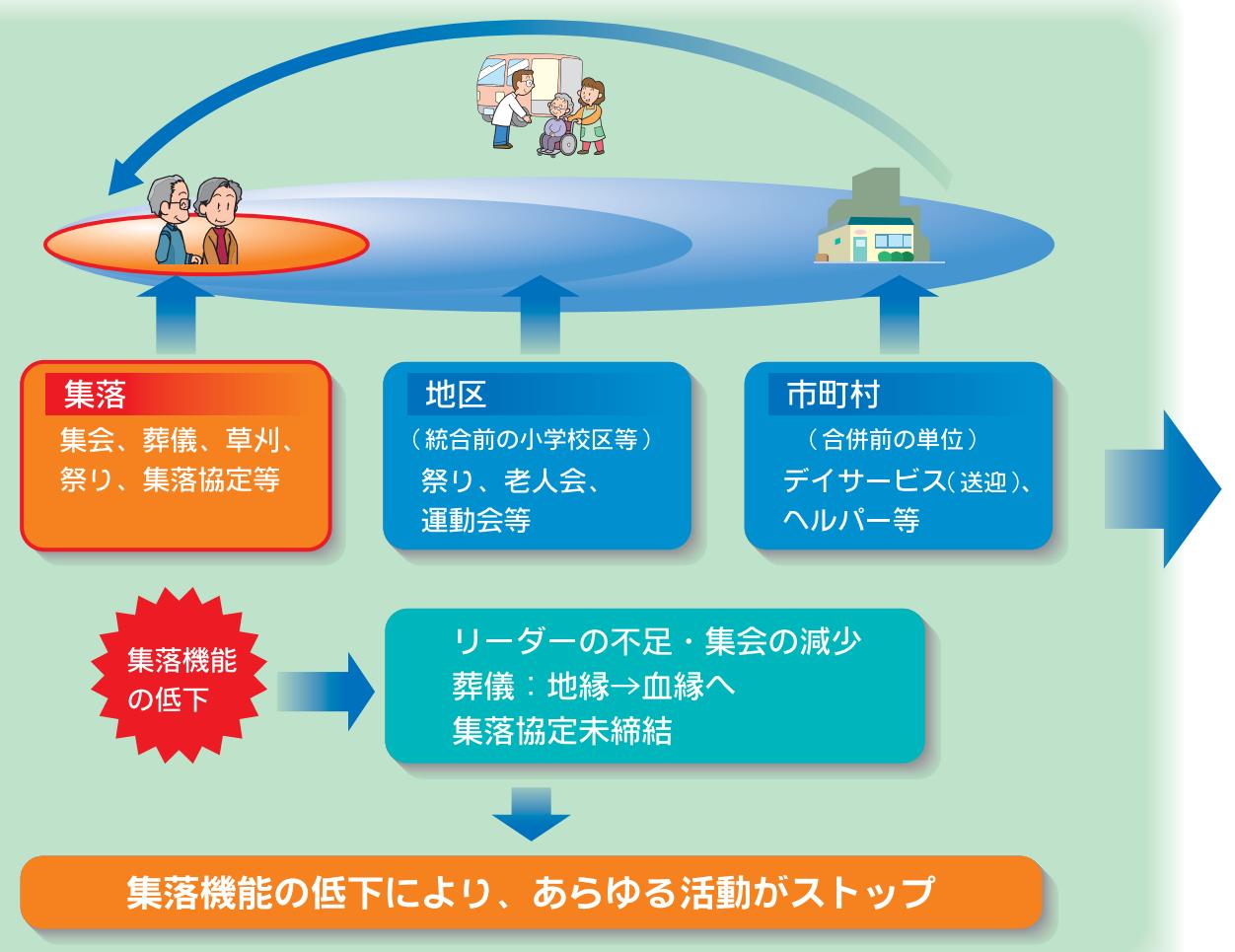
新たな組織での住民主体の活動を通じ

持続可能で活力のある中山間地域づくり

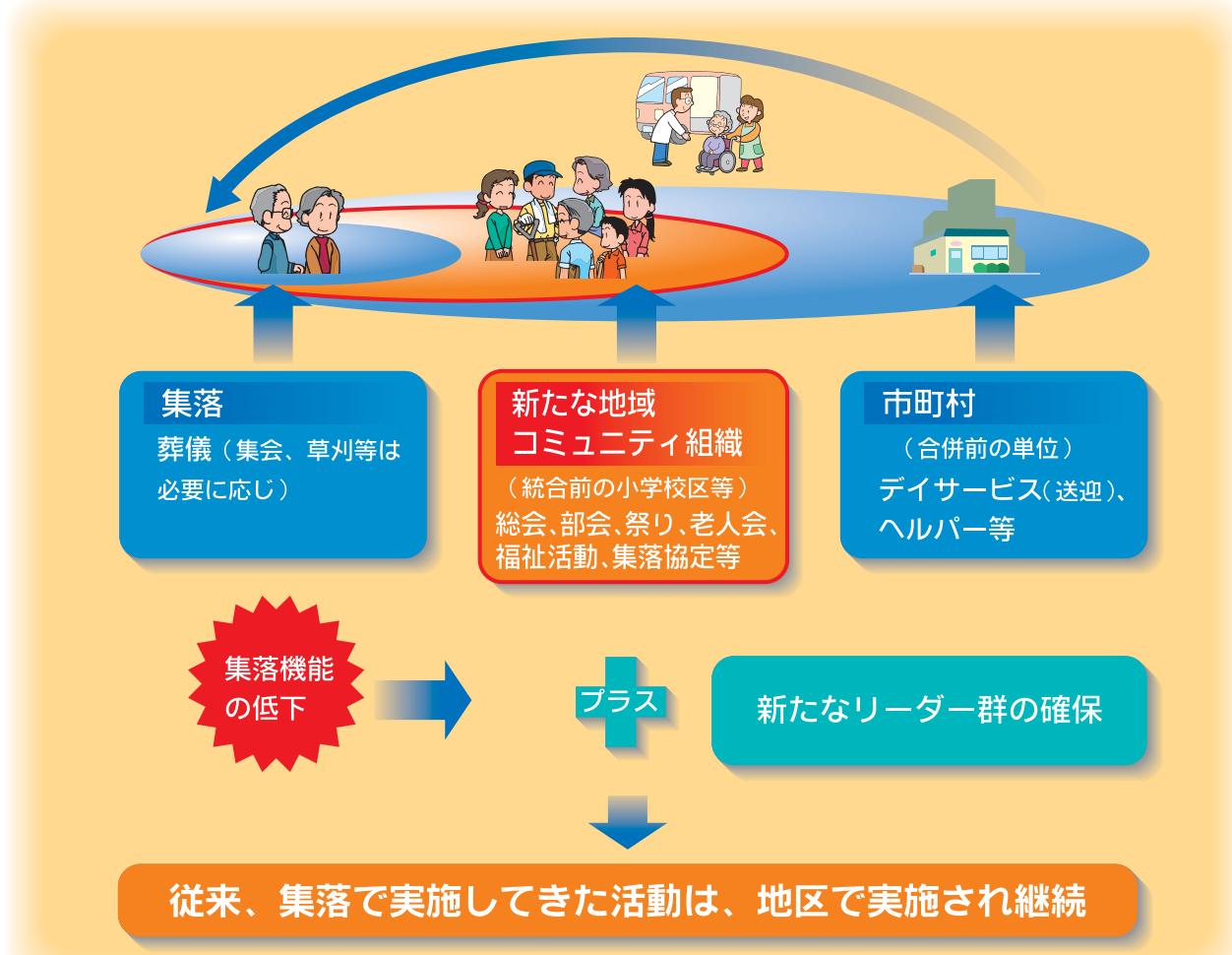
〈2〉集落の機能低下を広域で支え合う「仕組みづくり」

- 低下した集落の機能を、複数の集落による、広域的な地区で支え合うことにより、地域活動だけでなく集落自体を維持することが可能となります。
- また、地区が広域的になることから、単独の集落よりは、地域づくりの担い手の確保が比較的容易になり、さらに各種施設や様々な資源を有効に活用することができます。
- 「新たな地域コミュニティ組織」は、それぞれの集落や各種団体等の活動を否定するものではなく、広域的な地域で連携をすることにより、それぞれの集落の課題や各種団体の活動等を共有することで、単独ではできない課題の解決に向けて、効率的な取組が可能となるものです。

集落を主体とした地域運営（これまで）



新たな地域コミュニティ組織（これから） ●集落を超える新たな地域運営組織



資料) 中国地方中山間地域振興協議会

〈3〉 地域住民のやる気を引き出す「仕組みづくり」

- これまでの集落等の運営は、戸主（男性）主体に行われていましたが（「1戸1票」制）、女性や若者等の意見が反映されない、会合での決定事項を皆が知らない等の課題がありました。
- 新たな地域コミュニティ組織の運営においては、女性、若者、高齢者といった各個人の意見や知恵が反映され、地域のやる気を引き出せるよう「総世代参加型」の地域運営を行うことが重要です。（「1人1票制」）

◇ 「1戸1票制」から「1人1票制」

これまでの地域運営



1戸1票制

戸主（男性）中心の集落運営

不十分な女性、若者等の意見の反映
女性、若者等が発言しにくい雰囲気

若い世代の無関心

地域で何が行われているか
知らない人がいる

これから地域運営



1人1票制

女性・若者・高齢者等の
みんなの意見の反映

具体的な活動は部会等によって展開し、
やりたい人ができる範囲で関わる展開

子供の意図的な参画の誘導
(地域への愛着の増加)

地域内の情報の共有化を図り、活動に
参加できない人にも一体感を醸成

地域運営に多くの人の意見を取り入れることで、地域づくりに参加している実感を高める → 「手づくり感」の醸成
※特に子供達には、こうした実感が不足しています。

1人1票制を推進するため

生活様式の多様化で人が集まらない、男性の中では女性の意見が出しにくいなどの現状の中で、「多くの人の関心を高め」、「隠れた声を引き出す」ための手法

- 集落点検活動などの ワークショップ活動
- 個人アンケート（戸主に聞くアンケートではなく、世帯員個別に質問を行うアンケート）
- 部会制、委員会制の活用
 - ◆世代別部会、女性部会づくり
 - ◆目的別（防災、子育て支援等）の部会づくり

〈4〉住民主体の地域づくりを進めるための「仕組みづくり」

■地域のことを最も良く知っているのは住民自身であり、住みよい地域を創っていくために、地域課題の解決や地域の夢の実現に向けて、住民が主体的に取り組むことで、地域のニーズに根ざした活動を進めることができます。

これまでの地域づくり

集落住民の生活様式の多様化で
行事等への参加が難しくなってきた

戸主（男性）中心の集落運営
不十分な女性・若者等の意見の反映
若者等の活動への不参加

どちらかと言えば
行政主導型の地域づくり

地域内縦割り組織による連携不足

財政的な制約に伴う効率的な行政支援

合併に伴う周辺地の活力維持



これからの中の地域づくり

多様な生活形態に応じ、
みんなが参加できる柔軟な組織運営

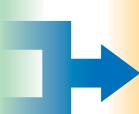
女性・若者・高齢者等の意見の反映
子供の意図的な参加（地域への愛着づくり）
→「総世代参画」



地域のことを最も良く知る住民自身による
「自ら考え、行動する」地域づくり



各種の施策が連携した総合的な取り組み



住民、行政双方が納得しながら
支援のあり方を合意

「住民自治」の取組

しかし

各地域の特性（人材、歴史、資源、
地形等）や熟度は、地域ごとに
差がある

これらの活動を機能低下しつつある単独集落で進めるのは難しい



各地域の特色に基づき、住
民自らが「手づくり」で進
めることが必要

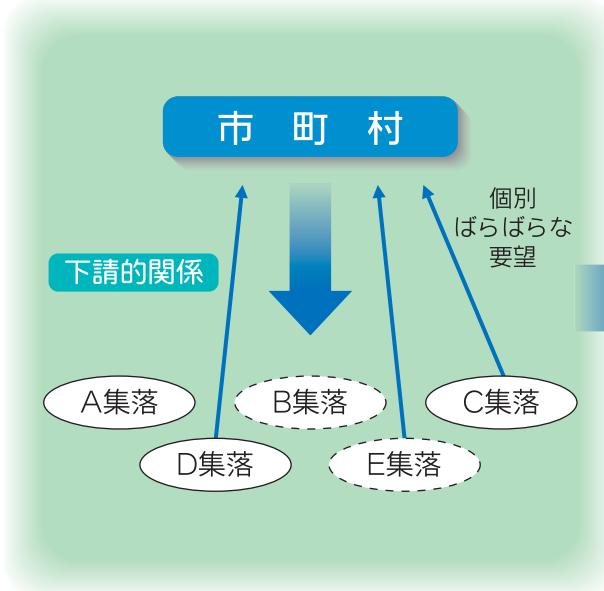


集落を超える「新たな組織」
づくりによる人材の集積が
必要

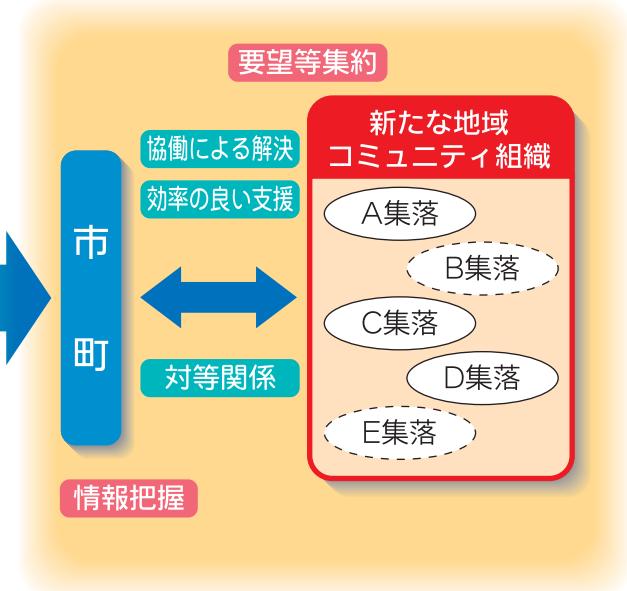
〈5〉 行政と協働で進めるための「仕組みづくり」

- 市町は、厳しい財政状況の下で、地域づくりへの効率の良い支援が求められており、また、市町村合併の進展に伴い、区域内の集落数が大幅に増加した市町もある中で、各地域のバランスのとれた発展を進めることができます。
- これまでの集落は、行政の末端組織として位置づけられてきた面もある一方で、行政に対しては、集落が個別に意見、要望等を行ってきましたが、新たな地域コミュニティ組織においては、地域住民主体の取組を進め、行政との対話を重ねながら対等な立場で、協働して地域づくり活動を進めることができます。

これまでの行政との関係



これからの行政との関係



〈6〉 「手づくり自治区」をめざそう

- 新たな地域コミュニティ組織は、地区内の各集落で構成し、営農組織や防災組織、農協、商工会、老人会、婦人会、NPOなど様々な団体・機関とも連携しながら、広域的に地域を支えると共に、地域の課題を地域で解決するため、総合的な活動ができる組織です。
- こうした組織を創り上げるためには、地域の人たち自らが当事者意識を持って、行政とも協働しながら、仲間と共に地域を挙げて“手づくり”で自ら未来を切り開く地域づくり活動を進めることが重要です。
- 本県では、こうした観点から「新たな地域コミュニティ組織」を

手づくり自治区

と称し、県内各地域での自主的、主体的な取組を促進していきます。

◎ 「新たな地域コミュニティ組織　＝　手づくり自治区」

(山口県中山間地域づくりビジョン掲載イメージ)

統合前の小学校区や大字等の範囲

